

# 大田区シルバー人材センター 令和8年度事業計画

## I はじめに

最新の統計によれば、令和7年9月現在、日本の高齢化率は29.4%と過去最高になり、主要38か国の中で引き続き第一位となっています。日本の高齢化率は他の先進諸国と比較しても類を見ないものであり、特に「団塊の世代」が75歳以上となった令和7年には、65歳以上の人口が3,653万人に達しました。世界全体が「高齢（化）社会に移行しつつあり、トップランナーである日本の高齢化対策や、「生きがい就業」を実践するシルバー人材センターの活動が海外から視察を受けるなど、世界的にも注目されています。

大田区シルバー人材センターでは、このような状況を踏まえ、第4次中期計画の中間年にあたる令和8年度においても、経験と知恵と未来志向の視点をもって地域社会の発展に貢献していきます。安定した事業運営を着実にを行うためには、社会環境の変化に合わせて、センター自体も適切に変わり続けることが必要です。常により効果的・効率的な事業運営を目指し、各種事業に取り組みます。

## II 基本方針

第4次中期計画に基づき事業を実施します。

事業計画は、中期計画と連動し、3か年計画の2年目として取り組みます。

- 1 会員の拡大
- 2 就業機会の拡大
- 3 安全就業の推進と健康の確保
- 4 地域との連携強化
- 5 事業運営基盤の強化

## III 令和8年度目標

第4次中期計画の目標値から、令和8年度の目標は次のように設定します。

項目	令和8年度（2026年度）
会員数	3,170人
請負等契約金額	931百万円
派遣契約金額	211百万円
契約金額合計	1,142百万円

## IV 事業実施計画

### 1 会員の拡大

センター事業をさらに発展させ、地域社会により貢献していくためには、共に活動する仲間を増やす必要があります。センターの魅力を効果的に発信することはもちろん、新たな魅力づくりにも取り組みます。

#### (1) 入会促進

##### ①入会者の増強

◇デジタル広告でセンターに興味を持った方に対し、ランディングページ[注]でセンターの魅力をわかりやすく伝えます。

◇大田区や区内の他団体が主催するイベントで、センターの活動をPRします。

◇会員募集のための広告チラシを区内全域に配布します。

◇プレシニア層を主な対象として、イベントを開催し、センターで活動することのメリットを伝えることで、将来会員になる可能性がある方にアプローチします。

[注] ランディングページ…オンライン広告や検索エンジンなどのリンクをクリックしたときに最初に表示されるウェブページのこと。

##### ②入会手続きの見直し

◇出張入会説明会の実施場所・時期・時間を工夫し、より効果的に実施します。

##### ③女性をターゲットとした入会促進

◇区民向けの業務説明会を開催し、直後に同会場で入会手続きができる催しを実施します。

◇女性会員の多様な活躍を広報媒体で積極的にPRします。

#### (2) 退会抑制

##### ①会員の活動意欲を高める仕組みづくり

◇会員の活動意欲を高め、センター活動を活性化するポイント制度を策定します。

◇会員表彰制度の見直しを行います。

##### ②未就業会員へのアプローチ強化

◇未就業相談会をより多くの会員に利用してもらうための情報発信強化に取り組みます。

◇未就業会員へ状況確認の連絡をする専門員によるフォロー連絡を実施することで、未就業会員のセンター活動への参画を支援します。

##### ③センター事業を深く知るための機会の創出

◇直近で入会した会員を対象に、センターの活動について、より理解を深めてもらうための研修を実施します。

### 2 就業機会の拡大

就業を希望する会員に対し、就業機会を提供することは地域社会におけるセンターの重要な役割です。就業開拓等による就業機会の創出、仕事と会員を速やかに結びつける仕組みの構築に取り組むことに加え、会員が自信を持って働くための研修を充実させます。その他、顧客（発注者）が気軽に、安心してセンターを利用できるように、サ

ービス改善に取り組みます。

## (1) 就業機会の創出

### ①効果的な就業開拓の実施

◇保育、小売業など、人手不足分野をターゲットとした就業開拓に取り組み、派遣事業の拡大をねらいます。

◇公益財団法人東京しごと財団と連携し、事務系職種を開拓します。

### ②関係機関・団体との連携強化

◇大田区各部局に対し、高齢福祉課を通じセンター活用事例を共有し、より一層のセンター活用を促します。

◇シニアワーク連絡会〔注〕の枠組みを活用し、地域の関係機関と連携し、事業をPRします。

◇ハローワークを定期的に訪問し、情報を交換することで地域の労働需要を把握します。

〔注〕シニアワーク連絡会…センター、大田区高齢福祉課、ハローワーク、いきいきしごとステーション、シニアステーション糎谷等との連携強化を目的として令和4年度から開催している意見交換会のこと。

### ③いくつになっても活躍できる環境の整備

◇モニター・アンケート回答業務等、身体的負担が少ない就業の拡大を目指し、教育機関、企業を対象とした就業開拓に取り組みます。

## (2) マッチングの強化

### ①マッチングスピードの向上

◇会員専用サイト Smile to Smile の活用を推進し、デジタルを活用した就業情報の提供を進めるとともに、シルバーサロンにおける「スマホ使い方相談」で、会員サポートを行います。

### ②売り込み営業の実施

◇効果的な売り込み営業の実施に向けて「こんなひとバンク」制度（就業開拓先の人材需要をあらかじめデータベースに登録し、条件に合う方が入会した際に売り込み営業を試みる）の導入の研究を進めます。

## (3) 顧客の利便性向上

継続的に発注してもらえる体制づくり

◇公園・緑道清掃業務において「人材ストック制度（スマスマワーク）」を継続し、会員の就業辞退等による欠員を速やかに補充できる体制をとります。

◇民間発注者を定期訪問することにより、発注者の困りごとの把握、解決に取り組みます。

## (4) 会員のスキルアップ

効果的・効率的な研修実施体制の確立

◇清掃に関する研修を定期的実施し、就業会員のスキルアップを図ります。

◇新たに就業を開始する会員を対象に、動画を用いた随時研修を実施します。

◇研修等の効率的な実施に向けて、サポート人員の活用を検討します。

◇新たな研修動画を製作し、Web上での研修環境を拡充します。

#### (5) 会員満足度の向上

就業会員が意見交換できる場の提供

◇一部の職群等において、会員同士で就業における悩み等を相談できる場を提供します。

### 3 安全就業の推進と健康の確保

安全は全てに優先する最重要課題です。安全就業を徹底するためには、会員一人ひとりが高い意識を持つことが不可欠です。研修・講習会や安全パトロール等を通じて、安全意識の向上を図ります。また、会員の健康は安全就業に大きく影響することから、健康状態の把握・健康増進に関するサポートにも取り組みます。

#### (1) 安全就業の推進

##### ①研修・講習会の実施

◇職群別の技術研修と同時に実施する形式で安全研修を実施します。

◇交通安全講習会やAED講習会を開催し、就業途上の事故防止や救命の基本について学ぶ機会を提供します。

##### ②事故防止の徹底

◇安全パトロールを実施し、各就業現場の危険要因の洗い出しを行い、当該現場の会員に対し、改善方法をフィードバックします。

◇事故現場確認、4M分析〔注〕を用いて、事故の再発防止に取り組みます。

〔注〕4M分析…Man（人）、Machine（機械）、Material（材料）、Method（方法）の4つの要素を分析・改善していくことで、課題発見や問題解決を図る手法のこと。

#### (2) 健康の確保

##### ①健康状態の把握

◇会員を対象にフレイル〔注〕チェックを実施し、自身がフレイルになっていないか把握できる機会を創出します。

◇会員に健康診断の受診を奨励することで、会員が自身の健康状態の変化に気付くきっかけをつくります。

◇体力測定会を開催し、自身の体力を把握できるようにします。

##### ②健康増進に関するサポート

◇フレイルチェックの結果に基づき、フレイル予防プログラムを提供し、会員各自が健康増進に取り組むきっかけを提供します。

〔注〕フレイル…年齢とともに、筋力や心身の活力が低下し、介護が必要になりやすい、健康と要介護の間の虚弱な状態のこと。

### 4 地域との連携強化

センターが、地域社会から必要とされる存在であり続けるためには、地域が抱える課題の解決に取り組むことが必要です。行政や他団体と連携しながらも、センターの独自性を活かした活動で地域を支えています。

## (1) 高齢者を支えるネットワークづくり

### ①地域交流の促進

◇高齢者等地域住民の交流を目的としたシルバーサロン事業を区民に周知するために広報に取り組みます。

### ②他団体との連携

◇地域力推進地区委員会〔注〕に参加して、センター事業についてPRし、各団体との連携を目指します。

〔注〕地域力推進地区委員会…18地区毎に地域の特性に合わせたメンバーで構成される委員会。メンバーは行政機関（大田区、消防、警察等）、自治会・町会、事業者、団体・NPOなどである。各々の連携・協働を推進することで、「地域力」を高め、地域の課題を解決し、魅力ある地域を創造していくことが目的である。

## (2) 会員活動の活性化

### ①地域ブロック活動の推進

◇会員に対し、地域ブロック活動に関する広報の強化を図り、より多くの会員に活動参加を促します。

### ②社会奉仕活動の実施

◇地域のイベントでのボランティア活動に取り組みます。

◇当センター独自の活動である環境美化活動に取り組みます。

## 5 事業運営基盤の強化

センターを取り巻く環境が劇的に変化している昨今、センターが公益的使命を果たし、安定した事業運営を着実にを行うためには、社会環境の変化に合わせて、センター自体も適切に変わり続けることが必要です。常により効果的・効率的な事業運営を目指します。また、危機管理体制の強化にも取り組みます。

### (1) 組織の強化

#### ①事業環境の変化への対応

◇法改正等、事業環境の変化に適切に対応します。

#### ②組織体制の見直し

◇施設の建て替え・移転等にあわせて事務局組織を再編し、体制の最適化を図ります。

#### ③人材の強化

◇組織運営に必要な知識を得るための役員向け研修を実施します。

#### ④事務局業務の効率化

◇マンション清掃において、就業現場の確認、会員と顧客との顔合わせ等を担当するコーディネーターを配置します。

◇生成AIの活用等による業務の効率化に取り組みます。

## (2) 危機管理体制の強化

### ①就業会員の意識改革

◇接遇、安全、人権等、あらゆる職群で必要となる知識を学べる就業基礎研修を実施します。

### ②安定的な運営

◇自然災害等が発生した際の事業への影響を最小限に留めるために、BCP [注] を策定します。

[注] BCP…Business Continuity Plan の略で、事業継続計画のこと。企業が自然災害、テロ攻撃等の緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限に抑え、重要な業務の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段等を取り決めておく計画のこと。